

弱音を吐く

校長 高田 晶子

立春が過ぎ、梅の花を目にするようになりました。地域の通りを歩いて、庭先の梅の花を見つけるとつい足が止まります。香もよく、果実は梅干などに加工されることを考えると、私たちの心身を癒してくれる優れものとさえ思います。

この季節は、夏バテだけでなく冬バテもあるそうです。寒さもう一息です。工夫しながら上手にこの時期を過ごしていきたいものです。



こども造形展校内展示

さて、最近、次のような記事を目にしました。

「戦」の時代だからこそ、弱音が吐ける場を

私は、「戦争がないあなたたちは恵まれている」と語りかけたことは一度もない。戦時下の人と比べて自分の苦しみを封じ込めてほしいとは思わない。むしろ、あなたにはあなたの苦しみがあ、誰かの物差しで測る必要などないはずだ、と伝えることを心がけている。

フォトジャーナリスト：安田 菜津紀氏

この記事を読み、考えさせられることが多くありました。それは、人には他人と比べられない苦しみ、辛さを持っているということです。皆さんの中にも「大変だよね」「つらいよね」と、他人から声をかけられたことは少なからず経験があると思います。人によっては、それを重く受け止めてしまい、「周囲の人にそう見られているんだ」とか、「心配かけちゃったどうしよう」とか、思い悩んでしまった人もいるのではないのでしょうか。

今の社会は、成績を見て他人と比べ競争したり、評価をもらおうと、どうやったらいい評価をしてもらえるのだろう、と考えてしまうような仕組みになっていると思います。そのことを、自分の成長のためだと考えられる人はどのくらいいるのでしょうか。本来はこういう仕組みも、皆が皆、前向きに考えてほしいという願いがあって、出来上がった仕組みだと思います。また、それだけではなく、そう考えられるようになってほしいということでしょう。

このような世の中の仕組みの中で、子どもも大人も、もがいている人は少なからずいるはずですが。この記事のように、「弱音が吐ける場」が身近にあり、いつでも弱音を吐いていいという環境が大事だなと思います。私が思い出すのは、高校時代の友人が、「辛くて辛くて、親になかなか言い出せなかったことをついに話したんだよね。涙で炬燵の布団の一面をびちょびちょにしちゃってさ。でも、話聞いてもらって、すっきりしちゃった。」と話してくれたことです。この友人の話がいつも心にあり、このようなことを繰り返しながら生活をしていくのだなと思っています。だから、今でも、「ためておくより言わなきゃ。」と思えるのです。

弱音を吐くことは、当たり前で、すっきりすることだと改めて思う今日この頃です。